

たばこの話

保健管理センター 助教授
青木 定夫

最近たばこの害についての声が大きくなっています。航空機では、国際線さえも全席禁煙がほとんどになっていますし、国内線ではいうまでもありません。新幹線でもかつては車両の片隅に追いやられていた禁煙車両が増えて、逆に喫煙席を探すことが必要になっています。レストランでは禁煙席を設けるのが普通になっていますし、ラーメン屋さんでも昼食時は禁煙という店があります。ようやく、禁煙、分煙に社会が力を入れて取り組み始めました。これは、2003年5月に施行された健康増進法の規定により、「学校、体育館、病院、劇場、観覧場、集会場、展示場、百貨店、事務所、官公庁施設、飲食店その他の多数の者が利用する施設を管理する者は、これらを利用する者について、受動喫煙（室内又はこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされることをいう。）を防止するために必要な措置を講ずるように努めなければならない。」（同法第25条）とされたことが大きいですが、これにかぎらず受動喫煙の害が声高に叫ばれるようになったためでもあります。

JT（日本たばこ産業）が毎年行っているたばこを吸う人の割合の調査の2004年の結果が公表されています。それによりますと、成人でたばこを吸う人の割合は2004年6月時点で、前年比0.9ポイント減の29.4%と、9年連続で過去最低を更新し、初めて30%を割り込んだそうです。この統計は1965年に取り始められ、今回の調査は全国の男女計1万6000人を対象に行い、1万875人（68.0%）から回答を得たそうです。男女別では、男性が前年比1.4ポイント減の46.9%と13年連続減少、女性は0.4ポイント減の13.2%で3年連続減少したということです。最近5年間の喫煙率の推移を図に示します。女性にくらべて男性で喫煙者が大きく減っているように思われます。この統計を基に喫煙者人口を推計すると、男性が前年比59万人減の2328万人、女性が17万人減の704万人になります。年齢別に見ると、喫煙者率が最も高かったのは男女とも30代で、男性が56.3%、女性が21.3%。地域別では男女とも北海道が最も高かったそうです。また、「毎日吸う」と回答した人の1日平均の喫煙本数は、男性が22.4本（前年比0.5本減）、女性が16.5本（同0.7本減）だったということです。JTは喫煙者の減少について「健康に関する意識が高まり、喫煙をめぐる規制の強化や、一昨年7月のたばこ税の増税実施などが影響しているのではないかと」しています。

狂牛病問題で米国からの牛肉の輸入が禁止されています。かぎりなくリスクをゼロにするという努力はもちろん必要ですが、専門家によれば、この禁止を解いても狂牛病の発症が統計学的に増えるということはないそうです（ある牛肉が安全かどうか

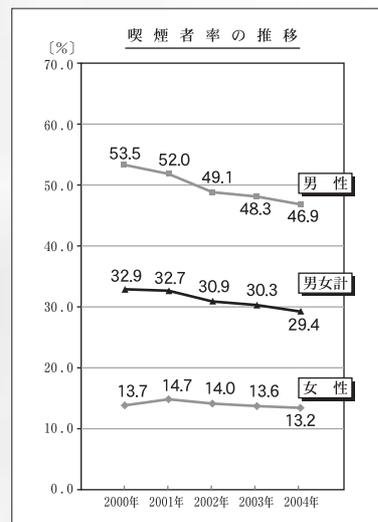
とは別次元のお話です＝念のため）、ところが、たばこの害によって、わが国で命を落としている人は年間1万人以上もいるのです。これは交通事故による死者に匹敵するかそれを上回る数字なのです。

牛肉を食べて難病にかかる危険より、たばこを吸うこと、たばこを吸う人の煙を吸い込むことによってさまざまな病気にかかる危険のほうがずっと大きいのです。たばこを吸っても全員が病気になるわけではないとは、喫煙者からよく聞く言葉ですが、そのリスクは無視できないほど高いことを認識すべきだと思います。

キャンパス内も禁煙化の波は進んでいます。喫煙者の権利を守るべきだという声も聞かれますが、少なくとも他人に危険を与えない義務があります。厚生労働省の「職場における喫煙対策のためのガイドライン」（2003年5月）では、分煙として喫煙室等を設ける場合には、『非喫煙室にたばこの煙が漏れないこと』、『たばこの煙が拡散する前に屋外に排出する設備をもうけること』、『喫煙室から非喫煙場所の境界において喫煙室に向かう気流が0.2m/s以上になるようにすること』が示されています。

たばこは、個人のためにも、家庭のためにも、社会のためにも、やめるべきものと認識しましょう。また、学生のみなさんは、決して新しく吸い始めることのないようにしてください。禁煙の努力をしてもなかなかやめられない人、それはあなたの意志が弱いのではなくて、ニコチン中毒という病気なのです。正しい指導の下で、かならずやめることができます。

たばこでお悩みのかた、保健管理センターにご相談ください。



保健管理センター【五十嵐地区】

Tel.025-262-6244 Fax.025-262-7517

旭町分室【旭町地区】

Tel.025-227-2040 Fax.025-227-0748

利用時間 / 8:30 ~ 17:00 (土・日曜、休日は除く)

こちら就職部

就職部では、こんな就職支援を行っていますので、どうぞご利用ください！

就職相談の実施

就職に関することは、どんなことでも相談に応じています。いつでも相談に来てください。また、学外から、企業の採用担当経験者である専門家を招いて、個人・集団別に定期的に就職相談や面接指導を行っています。

主な就職支援事業

就職部では、様々な就職支援事業を計画し、実施の際は、その都度、掲示・HP・メール等でお知らせしています。皆さんの積極的な参加を待っています。

8・9月	キャリアインターンシップ
9月下旬	全学就職総合ガイダンス（出陣式）
10月上旬	セミナー「就職のためのインターネット活用方法」
11月上旬	キャリアを考えるシンポジウム
12月上旬	首都圏企業学内合同説明会
12月中旬	官公庁等学内合同説明会
1月中旬	マナー講座
1月中旬	内定者セミナー
2月中旬	県内企業学内合同説明会
2月下旬	公開模擬面接会

各種模擬試験や講座の実施

- ・公務員採用試験対策講座・模擬試験、教員採用試験対策講座・模擬試験
- ・R-CAP公開テスト、一般常識模擬試験
- ・Web型就職支援ツール「E Testing」

メールによる就職情報提供

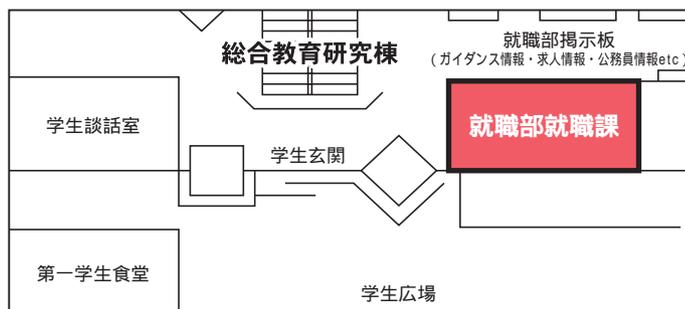
学生のみなさんに大学から配付されている電子メールアドレスに就職情報（求人情報、ガイダンス日程、説明会情報等）を随時配信しています。

東海大学との就職支援提携

新潟大学就職部は、東海大学と就職支援提携を結んでいます。これにより、本学の学生は首都圏の就職情報・求人情報を東海大学で入手することができます。また、就職活動の際、東海大学の宿舎を利用することができます。

就職部はここです！そしてこんなところです。

就職部はここです。就職部では、パソコンコーナー、就職対策本・求人票やパンフレットなど各種資料を整え、本学で開催したセミナー等のビデオ視聴コーナーも用意していますので、参加できなかったものをゆっくり見ることができます。お気軽においでください！



就職部就職課

TEL: 025-262-6531, 6087, 7889 FAX: 025-262-7579

E-mail: shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

利用時間 9:00~17:00 (土日、休日は除く)